

社 会 科

社会科部 中野 智貴 井出 悠介
研究協力者 宮崎 沙織

1 社会科における「教科本質的な学び」について

社会生活における人々の営みやその仕組みとその価値を認識し、それらを基に実社会と自らとの関わり方を見いだす学び

社会科の本質的な意義の中核をなす見方・考え方は「位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して，社会的事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活を関連付けたりすること」である。この見方・考え方を踏まえ，社会科の教科本質的な学びを「社会生活における人々の営みやその仕組みとその価値を認識し，それらを基に実社会と自らとの関わり方を見いだす学び」とした。本校では，「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指している。「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するためには，社会科の教科本質的な学びが欠かせない。なぜなら，社会科の教科本質的な学びを繰り返すことで，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育むことができるからである。公民としての資質・能力とは，実社会の中で他者と関わりながら生きていくための力である。この力があることで，社会生活の様々な場面で，自他の人格を尊重したり，複数の立場を踏まえて考えをもつことができたり，公正に判断したりすることができる。つまり，この公民としての資質・能力を身に付けることは，共によりよく生きていくことができる社会を創造していくことにつながる。

2 研究の方向

社会科では，単元の初めに抱いた疑問を解決するために立てた学習計画に基づいて問題解決的な学習に取り組み，社会的事象の特色や相互の関連，意味を明らかにし，実社会と自らとの関わり方を見いだしていく。このような学びの中で「自信」を深めることは，これまでに追究したことの無い社会的事象や自らとの関わり方を見いだせていない社会的事象に出会っても，今までに身に付けた力を生かして社会的事象の特色や相互の関連，意味を明らかにし，実社会と自らとの関わり方を見いだす学びにつながる。そして，その学びは，新たな社会的事象と出会うことへの期待を高め，身に付けた力を生かして新たな社会的事象の特色や相互の関連，意味を明らかにし，その事象と自らとの関わり方を見いだしていく意欲の源になり，社会の一員として，自らができることを考え，実行する原動力となる。

このような学びを実現するためには，独自の学習計画に基づいて社会的事象の特色や相互の関連，意味を明らかにできたことへの達成感や，学びの過程で他者が自らの考えを受け入れ，共に追究してくれることへの安心感を得ることが必要であると考え。

そこで，子どもたちが社会科の教科本質的な学びの中で，「自信」を深める学びを実現することは，共によりよい生活を創造する子どもたちの育成につながると考え，研究を進めていくこととした。研究を進めるにあたり，本研究における「力」を「問題解決的な学習を通して得た知識やその知識を得る過程で用いた学習方略」とする。

3 研究内容

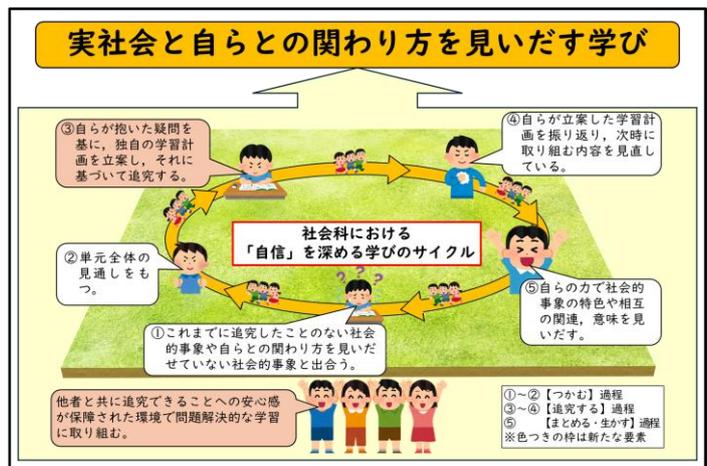
(1) 社会科における「自信」

社会科の教科本質的な学びにおける「自信」を以下の表のように捉えた。

自分ができる	自らの力で社会的事象の特色や相互の関連、意味を明らかにできるという自信
努力すればできる	これまでに追究したことのない社会的事象に出会っても、今までに身に付けた力を生かすことで社会的事象の特色や相互の関連、意味を明らかにできるという自信
認められている	自らが抱いた疑問について見いだした考えを他者が受け入れ、共に追究してくれるという自信

(2) 「自信」を深める学び

社会科における「自信」を深める学びを「独自の学習計画を基に、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を自らの力で明らかにする学び」と考えた。この「自信」を深める学びを実現するために、これまでの問題解決的な学習に「自らが抱いた疑問を基に、独自の学習計画を立案し、それに基づいて追究すること」「他者と共に追究できることへの安心感が保障された環境で問題解決的な学習に取り組むこと」を加えた。これにより、自らの力で問題解決することができたことへの達成感や学びの過程で他者が自らの考えを受け入れ、共に追究してくれることへの安心感を得ることができると考えた。さらに、この学びを繰り返すことで、子どもがより「自信」を深めながら問題解決的な学習に取り組むことができるようになるため、社会科の教科本質的な学びにつながっていくと考えた。(図1)



＜図1 社会科における「自信」を深める学びのサイクル＞

(3) 「自信」を深める学びに求められる子どもの様子

社会科における「自信」を深める学びに求められる子どもの様子を問題解決的な学習の過程に沿って表すと以下ようになる。

問題解決的な学習の過程	求められる子どもの様子
【つかむ】	【問題解決への期待】 ・自らが抱いた疑問を基に、進んで独自の学習計画を立て、問題解決の見通しをもっている。 ・前単元で身に付けた力を生かして、進んで独自の学習計画を立て、問題解決の見通しをもっている。
【追究する】	【問題解決への意欲の向上】 ・自らが立案した学習計画に基づいて、自らが解決したい内容を進んで追究している。 【他者が自らの考えを受け入れてくれることへの安心感】 ・自らが調べた内容や自らが見いだした考えを進んで他者に伝えている。 ・自らの不確かな考えを臆することなく他者に伝え、学習問題の解決に向けて共に追究している。 【次時の学びへの期待】 ・自らが立案した学習計画を振り返り、次に取り組む内容を見直している。
【まとめる・生かす】	【問題解決できたことへの達成感】 ・単元の学びを振り返り、身に付けた力を生かして問題解決に取り組めたことを実感している。

(4) 学びのデザイン

① 「自信」を深める学びを実現する学びのデザイン

「自信」を深める学びを実現するために、次のデザインを構想した。

【学びの自由度を高める問題解決的な学習の設定】

「自信」を深める学びには、子どもが解決したい内容を解決したい順番に調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を自らの力で明らかにできたことへの達成感を得ることが必要である。しかし、これまでの学習では、一単位時間に調べる内容や順番が一律に決められていたため、子どもが解決したい内容や順番とは乖離した形で学習に取り組むことがあった。そこで、子どもが解決したい内容を解決したい順番に、時間に軽重を付けながら調べていくことのできる問題解決的な学習を次のように設定する。

【つかむ】過程では、自らが解決したい内容を解決したい順番に項立てした独自の学習計画を立てる機会を設定する。【追究する】過程では、独自の学習計画に基づいて、時間に軽重をつけながら調べる内容を個人で追究するか、他者と共に追究するかを選択できるようにする。【まとめる・生かす】過程では、身に付けた力を生かして学習問題を解決できるようにする。また、習得すべき資質・能力を身に付けられるように、【追究する】過程において、全体で進捗状況を確認する時間も設定する。これにより自らが抱いた疑問を自らの力で解決できたことへの達成感を得られるため、「自分是可以する」「努力すればできる」という「自信」を深められると考えた。

(例)【追究する】過程が3時間で調べる内容が3つの場合		
問題解決的な学習の過程	今までの学び方	デザインを取り入れた学び方
【つかむ】	○クラスで統一された学習計画を作成する。 →学習問題……クラス共通 調べる内容…クラス共通 調べる順番…クラス共通	○独自の学習計画を作成する。 →学習問題……クラス共通 調べる内容…クラス全体で決めた調べる内容の中から子どもが選択 調べる順番…子どもが解決したい順番
【追究する】	○クラスで統一された学習計画に沿って、毎時間、全員が同じ内容を調べ、話し合っていく。	○独自の学習計画に基づいて、調べたい内容を個人、または他者と共に追究していく。
1時間目	・調べる内容1について調べ、話し合う。	・調べる内容1～3について個人で追究する。
2時間目	・調べる内容2について調べ、話し合う。	・調べる内容1～3のうち、さらに調べたい内容について、他者と共に追究していく。 ・現状の学びの進捗状況を全体で確認する。
3時間目	・調べる内容3について調べ、話し合う。	・自らの考えに不足しているところを個人、または、他者と共に追究していく。
【まとめる・生かす】	○クラス全体で見いだしてきたことを基に、学習問題を解決する。	○身に付けた力を生かして学習問題を解決する。

【他者と共に追究することのできる場の設定】

「自信」を深める学びには、自らの考えを他者に伝えても受け入れ、共に追究してくれるという安心感を得ることが必要である。しかし、これまでの学習では、他者の考えが自らの考えよりも問題解決に迫っていると判断し、自らの考えを伝えずに終わってしまう子どもの姿が見られた。そこで、他者と共に追究することのできる場の設定を行う。場は、クラス全体で決めた調べる内容の数だけ教室に設定し、調べたい内容に応じて、場所を移動しながら他者と共に追究していく。(図2)場は、【追究する】過程が2時間の場合は1時間目の後半と2時間目、3時間の場合は2・3時間目に設定する。これにより、自らの考えが事実と異なっていたり不確かであったりしても、その場に行くことで自らの考えを受け入れ、共に追究してくれる仲間がいるという安心感を得られるため、「認められている」という「自信」を深められると考えた。



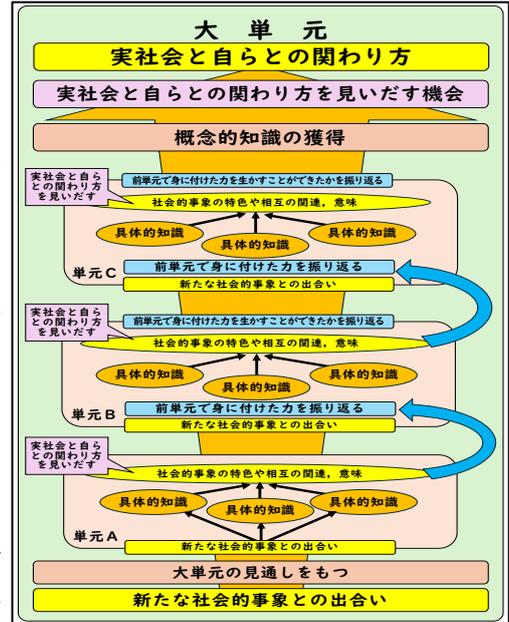
<図2 場の設定のイメージ>

【子どもの学びをつなぐ大単元構想】

「自信」を深める学びには、社会的事象の特色や相互の関連、意味を明らかにする過程で身に付けた力を生かして、問題解決的な学習に取り組めたことへの達成感を得ることが必要である。しかし、これまでの学習では、単元同士のつながりが希薄であったため、身に付けた力を次の単元に生かしきれずに新たな社会的事象を追究する学びが多かった。そこで、自らの学びを振り返る機会と身に付けた力を生かす機会を加え、単元で身に付けた力やそこで得た達成感を次の単元へとつなぎ、学びを進めるにつれて、より「自信」を深めていけるような大単元を構想する。(図3)

自らの学びを振り返る機会では、【つかむ】過程で前単元に身に付けた力で生かそうと振り返る。【まとめる・生かす】過程で前単元に身に付けた力を生かして問題解決的な学習に取り組めた様子を振り返る。これにより、本単元で働かせる社会的な見方・考え方を予測できたり、身に付けた力を生かして問題解決できたことへの達成感を得られたりするため、「自分はできる」「努力すればできる」という「自信」を深められると考えた。

身に付けた力を生かす機会では、大単元の各単元末や大単元末で、実社会と自らの関わり方を身に付けた力を基に考える。これにより、自らが取り組んできた問題解決的な学習が有効であったことを実感でき、その学びを次の単元に生かすことへの期待につながる。この学びは、「自分はできる」「努力すればできる」という「自信」を深めるとともに、社会科の教科本質的な学びにも迫ることができると考えた。大単元構想の各学年の代表的な例は、以下のとおりである。



＜図3 大単元構想図＞

学年	大単元	小単元名	実社会と自らの関わり方を見いだす際の問いの例	大単元の最終に実社会と自らの関わり方を見いだす際の問いの例
3年	安全なくらしを守る仕事	火さいから守る	火災から身を守るために、自分ができていることを考えよう	安全なくらしを実現するために、自分ができていることを紹介しよう
		事こや事けんをふせぐ	事故や事件に遭わないために、自分ができていることを考えよう	
4年	わたしたちのくらしと健康	水とわたしたちのくらし	水道水を使い続けるために、自分ができていることを考えよう	人々の健康な生活を支えるために、自分ができていることを紹介しよう
		ごみのゆくえ	身の回りがあるごみ問題を解決するために、自分ができていることを考えよう	
5年	わたしたちの生活と工業生産	くらしを支える工業生産	日本の工業生産の特色を紹介しよう	日本のものづくり精神を世界にアピールしよう
		自動車をつくる工業	日本の高い技術を生かした自動車づくりを紹介しよう	
		工業生産を支える運輸と貿易	運輸や貿易の問題を解決するために、自分ができていることを考えよう	
		これからの工業生産とわたしたち	日本の工業の課題を解決するために、自分ができていることを考えよう	
6年	わたしたちの生活と政治	わたしたちのくらしと日本国憲法	日本国憲法が存在しない日本の社会を考えよう	日本を住みやすい世の中にするために、自分ができていることを考え、提案しよう
		国の政治の仕組みと選挙	自分が国会議員になったら、どのような政策を提案したいか考えよう	
		わたしたちの生活を支える政治	前橋市をよりよくするために、自分だったら、どのような政策を提案するか考えよう	
	日本の歴史	天皇中心の国づくり	聖徳太子、中大兄皇子、聖武天皇のうち、誰が今の世の中に一番影響を与えたか考えよう	なぜ歴史を学ぶのか考えよう

②教師の関わり

社会科における「自信」を深める学びでは、子どもたちに計画の立案や追究を任せることが多くなるため、教師が適切に子どもに関わることで、3つの学びのデザインの有効性が高まり、子どもが学びの主体者となって問題解決的な学習に取り組めると考え、教師の関わりを以下のように想定した。

問題解決的な学習の過程	学習活動	教師の関わり
大単元の導入	・大単元の見通しをもつ。	・大単元の学習で身に付けた力を生かして見いだすゴールを問いかける。
【つかむ】	・単元全体の見通しをもつ。	・追究過程で身に付けた力を生かして単元の最後に見いだすことを問いかける。 ・単元同士のつながりをもてるように、前単元で身に付けた力で生かそうと問いかける。(大単元の2単元目以降に実施)
	・自らが抱いた疑問を基に、独自の学習計画を立てる。	・子どもたちの疑問や調べたいことを整理・分類する。 ・学級全体で決めた調べの内容から、自らの疑問を解決することができる項目を選び、学習計画シートに記述するよう促す。
【追究する】	・自らが立案した学習計画に沿って、個人、または、他者と共に調べながら問題解決的な学習に取り組む。	・調べる内容を共に追究する場を設定する。 ・調べる内容が同じ、または、近い他者を紹介する。 ・個人、または他者と共に追究する過程で、学習問題の解決に迫る姿を称賛する。 ・個々の追究で不足箇所を補えるように、学びの進捗状況を全体で確認する。
【まとめる・生かす】	・学習問題を解決する。	・身に付けた力を生かして学習問題を解決できるように、今までの学びを振り返り、見いだしてきたことを比較・分類・総合・関連付けするよう促す。
	・実社会と自らの関わり方を見いだす。	・身に付けた力を生かして、実社会と自らの関わり方を考えられたことを称賛する。
大単元の後	・大単元のをまとめる。	・大単元の学習で身に付けた力を生かして概念的知識や実社会と自らの関わり方を見いだせたことを称賛する。

ートを比較し、そこから見いだした共通点や相違点、疑問点を基に、話し合うよう促す。これにより、「自信」を深めた子どもだけが考えを伝えるのではなく、互いの考えを聞き合うことができるようになることで「自信」が深まると共に、教科本質的な学びを実現できると考える。

【参考文献】

- ・小山儀秋（2022）『教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』黎明書房。
- ・澤井陽介ら，（2023）『これからの社会科教育はどうあるべきか』東洋館出版社。
- ・難波駿（2023）『超具体！自由進度学習はじめの1歩』東洋館出版社。
- ・西岡加名恵ら，（2019）『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準。